


国名： ベルギー 走行エリア：ブリュッセル市内道路（中心部～エペール町へ）

走行エリアの基本情報：一般道 自転車専用レーン

参考 HP：<http://www.provelo.org/enN>（プロベロ社：自転車の利用促進・安全利用啓発団体／ブリュッセル）

レポート期日：2013年5月現在 ※ 上記 HP には、ベルギー市内のサイクリング地図（英語・仏語）有り

（※ 実際に現地で走行を体験した感想を基に記述しています。下記全ての内容は、変化している可能性もあります。ご了承ください。）

実際に走行した道路／コース状況：路面状況（アスファルト舗装・ダート） 使用車輛 ベルギーGranville社 シティバイク

ルート名：ブリュッセル市内中心部の ProVelo(プロベロ)社 ⇄ エペール町周辺 実走行距離：30 km

現地の人々の自転車とのつきあい方： ※ レポート報告者：OSCN 片山 昇

ブリュッセル市内では、隣国オランダのアムステルダムほど多くは無いが、通勤通学での自転車利用者が見受けられる。オランダのように、道端に自転車が並んではない。特筆すべきは、大人もヘルメットを着用する人が多い。さらに、[GRACQ](#) や [ProVelo](#) 社という自転車の有効利用促進団体の啓発活動の効果か、昼間でも自転車の視認性を高める反射性ベストを着用し走行している会社員の姿も散見した。OL 風の女性が華やかなコートを着て、ヘルメット着用で走行している姿は新鮮であった。自転車が国技であり、地下鉄名にツールドフランスの王者の名『エディ・メルクス駅』等の命名がされるベルギーならではの姿であろうか。

現在のサイクリング環境（道路整備・コース整備・社会的認知度等）：

ブリュッセル市内中心部には欧州らしい石畳の道路を残す。ほぼ市内全域に自転車が走るべき走行レーンを明示。自動車と分離タイプの専用レーンは大通りや住宅地に一部存在するが、大部分が車道端に自転車の絵のマークと白線での表示タイプ。又、場所によっては信号等でも自転車専用が存在し、自転車の絵のマークで **STOP&GO** を示し、人と車との流れを安全確実に整流する。特筆すべきは、「車のドライバー側が、自転車の存在を同じ道路を使用する通行車両として認知し、自転車を優先する習慣を身につけている」という点だ。大通りから逸れた道に入ると、道の両側に合法的に駐車されている車の列が続く。その車の列を想定した状態で、道路の内側に自転車レーンが描かれている。前から車が来ると、どちらかが避けなければ通過出来ない状態である。ここでは、ドライバーは自転車の存在を認めると車を止め、通過するまで待ってしてくれる場面に何度も遭遇した。「車道を自転車・バイク・車でシェアする習慣」が常態化しており、自転車側にも、「車輛としての責任感・交通状況を確実に認知し自分で身を守る必要性」があることを感じさせてくれる。カナダ同様、自転車が交通手段の正式な一員として社会的に認知されている。[Villo!](#)（ヴィロ）という有料で無人のシェアレンタルサイクリングステーションがベルギー市内各所に存在する。銀行のカード等でレンタル可能だ。車輛やシステムは日本で富山市が導入した[シェアサイクル](#)と似ている。[Villo!](#)を、ビジネスマンが利用する姿を比較的多く見かけた。現地のテレビ番組等では、平日の朝一番から週末に開催された自転車ロードレースの実況録画番組を放映。自転車を国技とするベルギーらしさが、ここでも感じられた。

状況写真：（※ 下記以外の状況写真・動画をご覧になりたい方は、左記ページへ⇒ 只今準備中 ※ フラッシュプレーヤー再生）



ブリュッセル市内の自転車レーン。交差点でもスムーズに直進するようにレーンが描かれている。大人もヘルメットを着用する方が多い。



市内各所にあるシェアサイクルシステム Villo!を利用している方。バンクカードで利用可能。車の停止線の前が自転車の停止位置。



公共の交通システムシェアサイクルのVillo!のステーション。



Villo!の管理会社が、車輛やレンタサイクルステーションの整備を行う。



公共の交通システムとして、ベルギー市が第3セクターに委託し運営しているシェアサイクル。レンタル・返却ステーションは、約450mおきに有り、市内ブリュッセル市内に180か所ある料金システムも、1日向けから、長期利用向け等各種設定されている。ちなみに、1時間の利用で、約2.1ユーロ（約300円）。



(写真左・右)
自転車専用の信号が設置されている交差点。専用信号がない場合は、車向けの信号に従う。



歩行者と自転車への標識。自転車も通行することや道の状況を明示。



狭い道から広い道へと自転車で進む時も、日本の現状のようにどこを走れば良いか迷うことが少ない。路面の表示が的確。



一方通行の表示で、自転車は対象外を示す標識。



(写真左)

日本のように、各所にコインパーキング等は無い。その為、合法的に車は路肩に駐車スペースを確保。そして、その駐車スペースの内側に自転車の走行レーンが描かれている。自転車が車道を走行することを明示している。



(写真上) 大通りにつながる道のポイントには、ドライバーや自転車双方に注意を促す為に自転車走行レーンが赤く塗られている。

Pro Velo (プロベロ)



(写真左・右) ブリュッセル市内中心部にあるプロベロ社。自転車利用促進活動・教育・調査を進める団体。有料でレンタサイクルや市内ツアーガイドサービス等も行う。地図等も用意されている。



(写真左・右) プロベロ社の担当者が、わかりやすく市内の道路や交通状況等を教えてくれる。安心して自転車を利用することができる。事務所の奥には、メカニックもおり、修理も可能。



(写真左)

レンタル自転車は、ベルギーの**グランベル社**製の一般的スタイルのシティバイク。タイヤサイズは700C。グランベル社は、ロードやMTB等も製造。

(レンタサイクル料金)

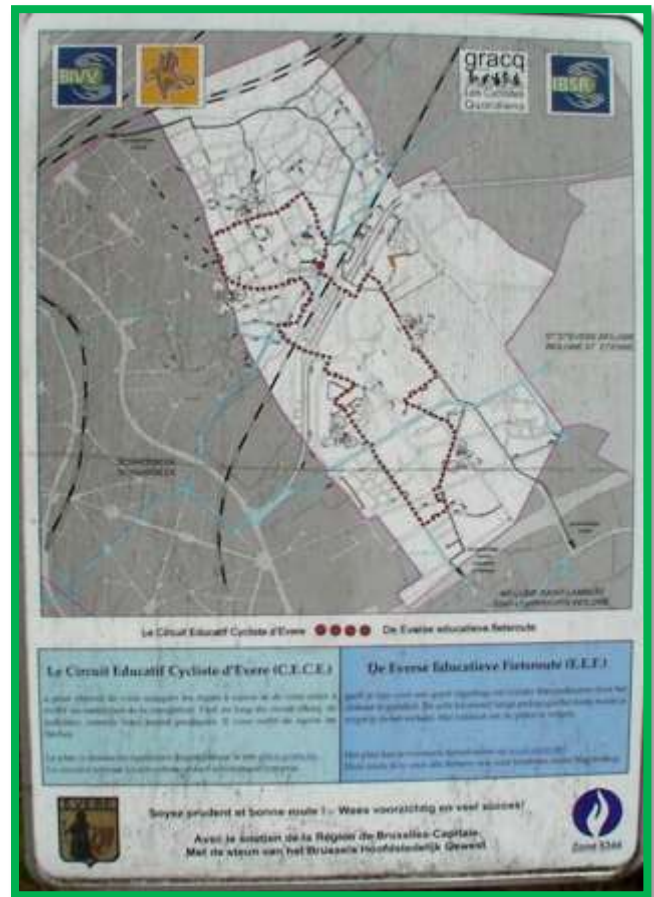
2時間以内で、右のシティバイクは、7ユーロである。(現在のレートで、約1000円)



(写真 上・右) ブリュッセル中心部から約6km ほどの街 エペール町。町道を自転車の安全教育コースとして設定し、児童の交通教育活動に生かしている。経由地点の各所には、安全に走行上のポイント等を示す看板が設置されている。市役所前のコース図。



(写真上) 市役所前の自転車専用レーン先のロータリーには、自転車の廻り方の看板なども設置されている。



(写真右) この地図のルートを使用し、実際に学校の交通教育等で、児童が先生や警察官と一緒に、自転車の利用の仕方を学びながら、注意ポイントを確認し走行する機会が設けられている。



(写真上) 漫画「ガストン・ラガフ」の像

←
ベルギーは、日本同様、タンタンやスマーフ等、世界的に有名なアニメキャラクターの産出国でもある。キャラクターの像や絵等が市内の至る所で見られる。

→
世界各地の小便小僧の起源とされているのが、ブリュッセル中心部にあるこの像である。観光客の絶えないエリアで。300年以上前の17世紀に作られた噴水彫像だ。



ベルギー観光局の HP ↓
<http://www.belgium-travel.jp/index.html>